

第1回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成28年5月25日（水）19時～21時
- 2 開催場所：庄内町立図書館 二階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、遠田由美子、館林由美子、小野寺博、高梨道明、仲條一志
- 4 欠席委員：阿部真一
- 5 事務局：社会教育課長、図書館長、係長、主任

進行：主任

1 開会：館長

昨年度策定された「庄内町教育振興計画」について、図書館としてどう具現化していくか、課題を検討していくか、年度当初職員に示し目標化した資料を添付したので、後ほどご一読いただきたい。

2 あいさつ

○委員長

先日、読売新聞のバックナンバーを閲覧するために図書館に来た。結局読売新聞は無かったが、町民が普通の生活の中で、こんな時は図書館に来ればいいのだと、どのくらい思い浮かべるだろう、と感じた。今日は、協議事項(2)「これからの庄内町立図書館」のあり方について、これからどうあるべきか、どんな図書館にすべきか、というところを重点的に審議してほしい。

○社会教育課長

今年度は、響ホールと余目地区の体育施設の指定管理がスタートした。社会教育課内では人事異動が多かったが、人が変わるとシステムや考え方が変わる、発想も変わるいいチャンスと捉えていきたい。図書館も耐震診断の年となるが、図書館整備について、どういう図書館であつたらいいのか、より良い図書館へ向けて、委員の方からも大きなところを考えていってほしい。

3 自己紹介

各自自己紹介を行う。

4 報告事項

- ・平成28年度庄内町立図書館運営計画について
- ・平成28年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
- ・平成28年度庄内町立図書館協議会年間計画について
- ・平成28年度庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館年間事業計画について

《事務局説明》

質疑応答なし

5 協議事項

(1)庄内町立図書館事業評価平成27年度分について

《事務局説明》

質疑応答なし

(2)「これからの庄内町立図書館」のあり方について

①平成27年度事業評価を踏まえての運営の方向性について

《事務局説明》

(委員長) ここからが、今日の協議の大きなテーマである。平成27年度の細かい事業評価は割愛して頂き、事務局のデータ分析と、委員個々の分析を踏まえながら、これからの図書館をどうしていったらいいのか、自由に意見を述べて頂きたい。

(事務局) ここからは、敢えて特化した資料は準備していない。自由な発想、新しいアイデアを提案して頂き、未来の図書館をはじめる第一歩となるようなディスカッションをお願いしたい。

(委員) 利用者の立場で言うと、今回の「よめっっちゃ(図書館だより)」にも掲載されているが、書庫にも利用可能な本がある、ということ、最近になってようやく知った。同じ作家でも、100冊単位で作品がある場合など、例えば書庫の本も含め1年に1回入れ替えてはどうか。開架の棚を見ている、同じ本がずっと並んでいる気がする。即利用者増にはつながらないかもしれないが、ある時期で書庫の本と切り替えてはどうか。

(事務局) 人気作家が亡くなった場合などは、新刊は出版されない訳だが、古い本でも需要があるため、そのまま同じ書籍が配架されていることもある。

(委員) 大変な労力を要するだろうが、ボランティア等を活用して、ぜひ入れ替えを検討してもらいたい。

(委員長) 現在の利用者が離れないようにするのが第一。その上で新しい利用者の拡大を目指すという観点でやってほしい。「分館応援団」の話が出たが、昨年度は本館にも、そういったお助け隊、ボランティアの必要性について話題となった。職員だけで動くのではなく、プラスαの力も使っていけたら良いのではないか。

(委員) 「分館応援団」には、図書館協議会委員が2人参加している。集まったメンバーは、アイデアがいっぱい詰まった人ばかり。実現できたら楽しいと話題にし、その一部が実現できた時は、やっついて良かったと実感する。

(委員) 近いうちに、カンガルー文庫の床の張替えをすると聞いている。その際は、書籍や書架の移動等に協力したい。また、レイアウトについても、アイデアを出していきたいと思う。

(委員) 一般町民の立場だと、勝手に自分たちのレベルで何かすぐやろうとしてもできない。時々、話し合いの席に、町の立場として話ができる人から参加してほしい。

カンガルー文庫についても、「分館応援団」のメンバーそれぞれがレイアウトのアイデアを持っていて、改修後の素晴らしい児童室のイメージがある。実際の張替え修繕はいつになるのか確認したい。

(事務局) 9月中には完成する予定である。

(社会教育課長) 図書館ボランティアに関連してだが、社会教育課内には様々な施設があるが、施設管理を含めて、職員が全部やる時代ではなくなってきていると感じている。教育長も同じ考えである。施設ボランティアという位置づけの方々に集まってもらいたいという思いがある中、「分館応援団」の活動としても、一方的にやってもらい感謝するだけでなく、満足感を高めてもらえるようにしたい。実現可能な事ばかりではないが、意見交換の場を設け、考え方が反映されればおもしろい。

カンガルー文庫の床については、予算上は現在のマットの上に被せるような状態を想定しているが、本を全部出さなくてはならないという点で、大変な労力が伴う。また、現在設置してある大型の小上がりのような椅子は今後も必要か。そういったレイアウトをどうするか、分館として考えなくてはならない。新規の備品購入は補正予算では対応できない。今後、施設ボランティアの方々と一緒に考え、協働していきたい。実際手伝って頂ければありがたい。業者としては、半分ずつ移動しマットを敷いていく、ということを考えているようだが、効率が悪い。

本館も分館も、貸出冊数の増加はうれしいが、子どもたちは、学校の本だけで手いっぱいのはずであり、一般の利用も増えているのではないかと考える。

今後、何年後かは分からないが図書館が整備され面積が増え、人員が増えたとしても、きっと職員だけでは手が回らない。本館の方も、「分館応援団」のような図書館ボランティアと一緒にやっていけたら、という思いがある。

(委員) 社会教育課で修繕方法等で迷っているのであれば、一緒に相談に乗るので、遅れずに完成してもらいたい。

(社会教育課長) レイアウトについていろいろな考えがあるのなら、そこをクリアしていかななくてはならない。

(委員) カンガルー文庫にもベンチを設置したい。間伐材を利用するボランティアがあるので、子どもたちの安全面にも配慮したようなベンチをお願いしてみた。

(館長) 現在ある大型の小上がりのような椅子は全部いらぬのか。

(委員) 全部いらぬ。

(館長) 現状では椅子の形が特殊で空間が二分されている。

(委員) 廃棄するのに費用がかかるのではないかと。今後は、模様替えできるようなレイアウトにすべきである。

(社会教育課長) いろんな発想があつていい。

(委員長) これが、これからの打開策になっていく。これまでは、予算がないからということでストップされていたものが、10必要だが5でやってみよう、職員だけに頼るのではなく、みんなでやってみようという形、やり方がある。関わった人がそこで満足し、また借りていく、そういうスタンスを作り上げていく。去年の評価で、それができるのだということが分かった。

中学生も勉強のため来館するが、(学習スペースの)テーブルがこの状態ではどうだろうか。他館では、みんな背中合わせである。衝立を作るだけで個別の空間ができる。テーブル自体、もっとコンパクトなものの方が良い。

(館長) ホールの机も大きい。ひとりずつしか座れず、利用度が低い、代わる机がない。できる範囲内で工夫してやっていく。

昨年度末、児童室は職員だけでレイアウトに手を加えてみた。今度はホールを、と考えている。

(委員) 耐震診断の話というのは、診断の結果、もたなかった場合はどうなるのか。

(委員長) では、今の話を受け、次の協議に移ります。

②庄内町立図書館（基本構想）に向けた「これからの庄内町立図書館」のあり方について

(委員長) 耐震診断の結果、何らかの答えは出る。では、庄内町にとってどういう図書館がふさわしいのか、どういう図書館であってほしいのか、漠然としているがそれが基本となる。それに近づくにはどういう施設がいいのか、現実には捉われない発想でいいのでご意見を出してほしい。

機能的には、先ほど事務局から話があったように、頼れる図書館、あそこに行けば何でも知ることができる図書館、というのが当たり前だが、規模的なこと、蔵書のことなども考えて、庄内町の図書館、おらほの図書館はこんな図書館、というように、どんなイメージが浮かぶのか、お聞かせ願いたい。

(事務局) 山形県の方でも、従来の図書館本来の機能の充実に加えて、新たな付加価値の創造ということで県立図書館の活性化計画を策定している。全国的にそういった流れにあり、その町の人たちが、他をうらやむのではなく、当事者意識で、自分たちの町の図書館はこういったところがすごいと誇れるような、そういった図書館づくりが目指されている。漠然としているが、個性を活かす、テーマ性

を持った図書館づくりが、今求められている。

(委員) 昨年度中山町の図書館を視察したが、うらやましかった。ここの図書館は(部屋が)独立した形。オープンスペースだったらもっと(レイアウトを)変えることができる。空間(ホール)はあっても、あるのは雑誌や新聞だけで、利用者も少ない。絵画や書のような遮光の制限がなければ、一部を仕切って本を設置できないか。空間がもったいない。

(委員) 中・高校生の学校の振替休日は月曜日が多い。先日自分の子も、振替休日に友達と図書館へ勉強しに行ったら、月曜日で休館日だった。取り決めでずっと月曜日休館なのか。そこが違えば、もっと利用しやすいのではないか。

(事務局) 全国的に話題になっている“ツタヤ図書館”や、指定管理の図書館は、夜も遅くまで開館し、年中無休に近い状態をひとつの売りにし、利便性の高さをアピールしている。

(委員) 休館日の曜日を変えてはどうか。

(委員) 他の商売でも、金曜日休みは案外少ないので、金曜日はどうか。

(委員) (休館日を変えるには) 条例を変える必要はあるが、図書館を利用できない人たちから利用してもらうには、休館日を変えてみては。

(社会教育課長) 図書館の職員は現在も不規則勤務だが、土・日曜日と月曜日で連休を交代で取っている。私としては職員のコンセンサスをどうとるかという点を考える。

(委員長) 職員は交代で休めばいいのではないか。

(社会教育課長) 休館日が金曜日ならいいが、バラバラにすると、勤務のローテーションを考えるのが大変である。また、休館日を無くするとすると、職員の配置、割振りが大変になる。サービス提供を受ける側だけでなく、サービスする側の職員のことも考える必要がある。

このたび、遊佐町の図書館が指定管理者となったが、休館日を半分くらい減らして、開館日を増やした。それが成果となっているようだ。

(委員) そうなった場合の維持管理費はどうだろうか。入館者は増えても、維持管理費を考えるとそちらは増えてしまうだろう。

(社会教育課長) 職員の労働基準法上の、1週間の割振りの問題もある。

(委員) 先ほど事務局から話があった、特色ある図書館についてであるが、庄内町として何を特化するのか。単純に言えば米であるが、昔はあったが今は途絶えてしまった野菜等の食材について掘り起こしてノウハウを伝えるようにしていけば、今の健康志向にもつながる。そういった書籍と組み合わせていくのはどうか。或いは全然新たなものを特化していくか。

(委員長) まずは「農」ということか。

(委員) 防災関係だとすれば、これだけあれば生き延びられる、といったテーマとか。

(委員長) 10年ほど前に「庄内町立図書館建設整備検討委員会」に携わった時には、平田に図書館が開館したこともあり、これからの時代は視聴覚施設の整備の充実といったことを考えたが、今になると余計なものは不要だと考える。それより、使いでのある空間に、座机を置いたり、ホールとして活用するなど、要は、図書館としては低くて見やすいゆったりとした配架は必要だが、その時だけ必要なものはいらぬと思う。

Web 活用の報告も事務局からあったが、家庭に行けばそれなりの手段はある。(PC 等)触りたい人向けに数台あり、学べる空間があればいいのではないか。そして先ほどホールの話もあったが、何にでも使える空間があればいいのでは。

(委員) いずれにせよ、ホールのテーブルはコンパクトなものにすべき。

(委員長) 加えて、農村地帯であるということであれば、気楽に入れるところ。泥の着いた長靴は脱い

でもらうとしても、きれいな靴だったらそのままどうぞ、でもいい。間口が4枚戸くらいの、広々とした解放感があるような入口がよい。

(委員) スリッパをわらじにして「わらじ図書館」にしてはどうか。

(委員) 図書館にはこれまでひとりで行くことが多かったが、これからは友人と図書館で待ち合わせする、という形もある。一緒に本を借りて、横にある喫茶店のようなところで、お茶を飲みながら、こんな本を借りてきたと会話が楽しめるような、そんな場所があったらよい。特に、立川地域にはそのような場所がないので、図書館と1枚ドアを挟んだそこに行くだけで「図書館に行って、その後お茶しよう」が合言葉になればいい。

(事務局) 今は、新設や増築される図書館では、カフェの設置がすべからず計画のコンテンツとして入っている時代である。

(委員長) 響ホールのパワイエのように、自動販売機とソファがあるだけでも雰囲気が違う。

(事務局) 以前視察した南相馬市立図書館も、隣接して障害者施設で運営するカフェが設置してあり、図書館と共存していた。双方がとてもいい相乗効果を生み出していた。カフェ経営も、利益追求だけでなく社会参加という意味もなされており、大変勉強になった。

(委員長) そのように、壁1枚で、例えばこちらは子育て支援の空間、こちらは保健センター、といった空間があればいいのだが。

(委員) わらじの件に戻るが、手先の器用なお年寄りから作り方を習って「わらじスリッパ」をプレゼントするとか、様々可能性はある。榎島ほうき等もあるが、古い文化や伝統を受け継いでいくことも大切ではないか。

(委員長) そういった講座を、図書館主催で開催する、或いは場所を提供する等、昨年中山町で研修させてもらった。

つちだよしはるさんの原画展がせっかく10周年を迎えるということなので、絵本コンクールの開催はどうか。

(事務局) 当館の特色部分として、内藤秀因水彩画記念館が併設されている、ということがあげられる。図書館としては単館ではあるが、併設施設があることにより、展示の場、発表の場がある。

今、世界的な大きな流れとして「MLB連携」が注目されている。Museum=博物館・美術館、Library=図書館、Archives=文書館・資料館であり、そういう意味では、当館は先駆けであるとも言える。記念館も十分活用した図書館運営を模索できたらと考えている。

(委員) 水彩画記念館で絵を観ながらお茶をする、ということではどうか。

(事務局) 絵画は水分を嫌うものなので、それは不可能だと思う。

(委員) 建物的には、記念館は喫茶店に合いそうだが。

(委員長) 内藤秀因水彩画記念館なので、収蔵されている絵や内藤秀因をテーマに、俳句等の募集や、作家をつくろう、といった事業は開催できないか。今のままだと、つちだよしはる記念館になってしまう。

(委員) 記念館の場所が分かりにくい。入り組んだ所にあり、案内しづらい。図書館の整備も大事だが、案内板の設置も必要だ。

(委員) 1月に藤島の旧東田川郡役所にて布絵本の個展があった。先生の弟子や読み聞かせに興味がある人等の集客が結構あった。作成するにあたっての参考になる絵本を探すため、そこから図書館に立ち寄ってくれる人もいるはず。内藤秀因水彩画記念館でも、そういった、図書館とは全く方向違いではないような個展を開催してみてもどうか。地元にも作家はいる。

(委員) 機械室の改装をぜひやってほしい。現在使われていないボイラーの鉄材を全部撤去して手直し

すれば、作業室や職員の休憩室や小さな会議スペースとして有効活用できるはずである。

(社会教育課長) 今は、古くて使い勝手が悪い庄内町立図書館という意見があるわけだが、では、どういう図書館だったらいいのか、何があったらみんな来てくれるのか、そこをお聞きしたい。耐震診断の結果ありきではない。その前に、どんな図書館がいいのか、という点をお聞きしたい。

先日、教育長とつちだよしはる氏が対談した際、つちだ氏からは、大きい都市で素晴らしい図書館というのは全国にある。だがこういう町でコンパクトな図書館があってもいいのではないかと、という話をされた。

ただ、外から来た人ではなく、町民が使いやすい図書館、みんなが使いやすい施設という観点で見ないと、人が来る図書館にはならない。委員の皆さんのイメージの図書館が、増築では実現できない、というのであれば、根本から見直さなくてはならない。

6月にある山形県図書館研究大会に向かう際にでも、また意見交換して頂きたい。他の図書館がいい、というのであれば、どの部分がいいのか、庄内町立図書館に反映するにはどうしたらいいのか、検討してほしい。

(委員長) 今日は ①書庫にある本も活用しながら、開架に読みたい作家の本が十分配架されているような工夫が必要 ②本を読むだけ、借りるだけではなく、人との待ち合わせや時間を一緒に過ごすこともできるような図書館づくり ③ボランティアが活動しやすいような作業スペースの確保 ④「農」を活かした、また伝統文化を継承するような図書館づくりといった点が提案された。

(委員) 「分館応援団」でも様々な意見が出るが、結局はお金がない、というところに行きつく。でも、お金が無くてもできることは何だろう、ということから、知恵が出てくる。お金が無いからそこで終わり、ではなく、そこからさらに突っ込んで考えてみると、何とかなる。

(委員長) 閉架の部分など、金が無ければできないところには金はしっかり使ってほしい。

(委員) 例えは、ただ移動するだけであればお金はかからない。そしてそういった提案が実現した時は、その積み重ねでボランティアも満足し、次の活動への励みとなる。

(社会教育課長) 施設ボランティアとの関係はギブ&テイク。頑張ってもらったらこちらも耳を傾けなくてはならない。お互いの話し合いの場、協働の場がないといけない。

(委員長) 今後、県の研究大会もありますし、耐震診断後に協議会も予定されている。皆さんの中で、今日の話し合いを踏まえ、本町にふさわしい図書館、自分がほしい図書館、町民が行きたくなる図書館、最低限必要なものは何か、ということを考えて来てほしい。協議事項についてはここまでとさせて頂く。

(3)その他

事務局からの提案はなし

6 その他

6/23 (木) 第67回北日本図書館大会・第36回山形県図書館研究大会の参加について説明

7 閉会: 主 任